

「カナダ—その歴史と社会と教育」
ジョゼフ・キャロン大使の基調講演
群馬県立女子大学、2006年11月28日

皆様、こんにちは。

まず最初に、本日お話をする機会を与えてくださった主催者の方々に
お礼を申し上げます。

では本題に入る前に、少し私の経歴についてお話させていただきます。
私は1972年にカナダ外務省に入り、長いこと外交官として、おも
に日本で仕事をしてきました。日本へ4回も赴任する機会を与えられた
ことを大変幸運だと思っております。私も私の家族も、日本は第2のふ
るさとであると考えようになりました。仕事の面で深い関係がある
だけでなく、家族ともども、個人的なつながりがたくさんあります。
家内のクムルは通算19年間、日本で暮らしており、3人の子供たちは
皆、日本で生まれました。そのうえ、うちの犬と猫も日本生まれなん
ですよ。言うまでもなく、私達は日本へ戻ってきたことを嬉しく思っ
ております。

では、まずはじめに、カナダとその歴史、カナダの特徴を簡単に述
べ、次に日加関係の歴史についてお話します。そのあとで、カナダの
教育制度と、皆様がご利用できる教育の機会についてお話します。

カナダの特徴

世界で2番目に大きな国土を持つカナダは、ロッキー山脈、ナイアガラ
の滝、バンフやジャスパーなど、広大な自然の風景でよく知られてい
ます。しかし、カナダのユニークな歴史、多様性と活力に満ちた多文

化社会、活気あふれるアート、国際社会で果たしている重要な役割、そして世界有数の先進技術などは、まださほど知られていません。しかし、これらの特徴があいまって、今日の世界でカナダについて力強く良いイメージが作られているのです。

ユニークな歴史

カナダは多くの意味で若い国と言えますが、数千年にわたり先住民族とその祖先たちの故郷となってきました。16世紀に、フランスとイギリスの探検家が大西洋岸に入植し、激しい戦争の末、全植民地がイギリスの支配下に入り、その支配は1867年まで続きました。ケベック法の制定により、イギリスはフランスの住民に自国の文化、言語、宗教、法制度を維持することを許可しました。1867年にカナダ連邦が誕生した後もずっと、フランス語は議会と裁判所で使用されました。カナダの多様性は、まずこうした歴史的背景を考慮せずに語ることはできません。

現在、カナダの政治機構は立憲君主制で、イギリスの女王がカナダの女王です。総督が国家元首として女王の代理を務め、首相がカナダ政府のかしらです。

多文化モザイク社会

カナダの社会は世界中から来る移民によって、さらに豊かになっています。第二次大戦以前は、カナダへの移民の大半はヨーロッパから来ましたが、1945年をさかいにアジア、南米、カリブ海諸国からの移民がふえ、カナダの多文化モザイク社会をさらに豊かにいろどるようになりました。

今日、カナダの全人口の約5分の2が、イギリス系、フランス系、先住民族以外の出身者で占められています。アジア系カナダ人の総数は、ほぼ450万人に上り、これは全人口の13パーセントを越えています。また、カナダ人の18パーセントは複数のぼごを持つか、英語またはフランス語以外の母語を話します。

1971年、民族と人種の多様性は、カナダのアイデンティティと国家遺産の基本的で貴重な特徴であると認められ、世界ではじめて多文化主義が国の政策として取り入れられました。

アートと文化

Canada's historical foundations and modern multicultural society are reflected in its unique and thriving arts and cultural community, resulting in international recognition of Canada's achievements in the performing and visual arts, literature, and cinema.

Céline Dion, Alanis Morissette, Avril Lavigne and Daniel Powter are all Canadians as well as actors Kiefer Sutherland (24), Mike Myers (*Austin Powers*) and Jim Carey.

Canada's Cirque du Soleil, a unique form of circus developed in Montreal, Canada, has been revolutionizing the entertainment business since 1984. They will come back to Japan with Dralion in February 2007 and will open a permanent show in Tokyo's Disney Sea in 2008.

世界におけるカナダ

カナダは、国連平和維持活動における世界の先駆者という名声を博してきました。この概念を提唱したレスター・B・ピアソン元首相は、1957年にノーベル平和賞を受賞しました。

カナダは多国間主義を信奉する国として国際社会からうやまわれ、G8やアジア太平洋経済協力会議（APEC）、仏語圏国際機構など、世界のおもだった組織の一員として影響力を及ぼしています。

革新的な素質

カナダの広大な国土や遠隔地の冬の厳しい気候は、通信、医療、輸送、住宅、食糧生産など日常生活で直面する難題を生み出し、カナダ人はそれらを乗り越える創造性を培う必要性に迫られました。こうして培われた創造性が、カナダを様々な分野で世界をリードする先進技術国へ成長させる原動力となってきました。

アイマックス技術をはじめ、映画やゲーム産業で使われているソフトウェアの約80パーセントはカナダで開発されたものです。「ミッション・インポッシブル3」や「パイレーツオブカリビアン」などの映画、「ファイナルファンタジー」や「ワールドオブウォークラフト」、「グランドセフトオート」などのゲームはいずれも、カナダのソフトウェアを使って制作されました。

カナダには世界最大の携帯電話網があります。また、最先端のインターネット技術があり、世界で最も安いインターネット接続料金を提

供しています。

日加関係

日加関係はおもに通商の分野で始まりましたが、1929年に外交関係が樹立し、ハーバート・マラーが初代駐日カナダ外交代表として任命されました。1941年、太平洋戦争が勃発し、二国間関係はとだえました。しかし、1946年にはカナダ代表部が再開され、1952年には完全な外交関係が復活しました。それ以来、両国は日加関係の基礎を築く「人と人との絆」を通して、二国間関係の推進に力を入れてきました。人々の交流をふやすために、交流を行う最良の枠組みとなる姉妹都市提携を結ぶ機会を求めています。現在、両国間には72を越える友好・姉妹都市提携が結ばれています。

そのほかにも、人々の交流の機会を提供するプログラムとして、日本政府の「語学指導等を行う外国青年招致計画（JET）」があり、毎年700人の若いカナダ人が参加し、英語を教えたり、政府関連の事務所で働いています。また、「ワーキングホリデー・プログラム」のもとで、毎年5,000人の日本の若者がカナダへ渡り、約1,000人の若いカナダ人が日本を訪れています。さらに、大学間の交流提携により、両国の学生達に学習の機会が広がっています。

On the economic front, Japan is Canada's 2nd largest trading partner after the U.S. and an important investor in Canada with roughly 400 companies in Canada, which employ over 50,000 Canadians. Canada has been a key source of natural resources for Japan, but it also exports planes, computer software, biotechnology and sporting equipment. On the other hand, Canada imports Japanese automobiles,

electronics and other manufactured goods.

カナダと教育

カナダは日本と同じように、質の高い教育を非常に重視しています。2005年、高等教育を受けたカナダの成人の割合は、米国、イギリス、フランスを含む他の経済協力開発機構（OECD）加盟国の水準を越えました。カナダは53パーセント、日本は52パーセントで、それぞれ第1位と2位を占めています。

カナダの優れた教育制度、充実した訓練プログラム、教材・施設は、国際的に高い評価を受けています。こうした評価は、初等・中等・高等教育、職業訓練、企業内教育や訓練を提供する公立・私立の教育機関、企業や団体のいずれにも共通しています。

カナダの教育制度

多くの先進工業国と異なり、教育の責任は連邦政府ではなく、州政府にあります。各州の教育制度は、地域固有の特性やニーズによりいくらか異なっています。小学校と中学校の管理は、選ばれた評議員からなる教育委員会に託されています。

カナダの基本的な教育は、公立学校、“分離”学校（大部分はローマカトリック教徒）、私立学校で行われています。義務教育は、州により少し異なりますが、大体6歳から15、16歳までです。高校までの教育は、私立をのぞき公費でまかなわれ、カナダの住民は無料です。大学から先の学費は有料です。

小学校と中学・高校

About five million children attend public schools in Canada. In some provinces, children can enter kindergarten at the age of four before starting the elementary grades. The curriculum is relatively universal and core subjects are comparable to those taught in Japan. Given the bilingual nature of Canada, all students must take classes in the other official language starting in grade 3 and many schools offer special programs which help students to develop critical thinking and analytical skills.

In general, high school programs consist of two streams. The first prepares students for university, the second for post-secondary education at a community college, institute of technology, or at the workplace. There are also special “hands-on” programs for students who are unable to complete conventional courses of study. Canada also offers special programs for children with learning disabilities.

高等教育

1960年代までは、高等教育の大部分も、おもに宗教とのつながりがある私立教育機関であった大学で行われていました。しかし、高等教育への需要が急激に高まるにつれ、公立の教育機関が発展し始めました。現在カナダでは、200校ほどの専門学校やコミュニティー・カレッジが、約100校の総合大学を補完する機能を果たしており、学生の総数は約100万人に達しています。個々の教育機関により、学生数は1,000人未満から35,000人以上とそれぞれ異なりますが、学生のニーズに最もよく合った幅広い経験を提供しています。留学生の学費は、教

育機関や教科課程により異なりますが、たいていの場合、米国や英国よりもずっと安くなっています。

大学入学に際しては、高校の選択教科と成績が考慮され、入学試験はありません。最低要件は、州、教育機関、教科課程によって異なります。

カナダの専門学校やコミュニティー・カレッジは、特定の職業につくための訓練を提供しています。教科課程は専門技術を柱とし、実地体験を組み合わせています。カナダの学生の多くは、カレッジの学位に加え、大学でも学位を取り、可能な限り高水準の学識と、職業に必要な特定の訓練の取得に励んでいます。

Unlike Japan, older or “mature” students are a common sight on Canadian campuses. Approximately one in four students enrolled in Canadian universities is over the age of 24. Many Canadians return to school after working for a certain period, providing evidence of the importance Canadians place on “lifelong learning.”

カナダが誇るもの

カナダのユニークな特質の多くが、教育分野にも良い影響を及ぼしています。カナダが特に誇りにしているのは、二つの公用語を持つ多文化社会として、第二言語としての英語とフランス語の指導における高い評価と豊かな経験です。カナダの広大な地形と遠隔地に点在するコミュニティーに対応し、遠隔教育、つまり「通信教育」が教育制度の基本的な要素となっています。カナダの教育機関の多くは、遠隔教育を積極的に展開しており、外国の学生にもこのような機会を提供して

います。

つい最近では、マルチメディアの分野で、カナダは新しい画期的な教材の開発に指導的な役割を果たしています。双方向性に優れたマルチメディアは、テキスト、写真、音響、音楽、グラフィックス、データ、アニメーション、ビデオなどのコンテンツを組み合わせ、コミュニケーションの新しい世界を創り出しています。

世界に開かれた教育

カナダの教育・訓練機関に在籍する留学生の数は、2005年に、153,996人に上りました。また、滞在期間が6ヶ月以内の観光ビザを利用した短期留学生も数千人を越えました。

カナダで学んだ留学生は、安全で清潔な環境、質の高い指導内容と最新の設備を賞賛しています。また、カナダの温かい多文化社会により、留学生はすみやかに学生生活に溶け込むことができます。

カナダの教育網：国の財産

Canada demonstrates its commitment to education through its sizeable education budgets. Canada ranks among the world's leaders in per capita spending on public education as it believes that the investment generates healthy returns. In Canada, the high educational level has proven to be a powerful and positive contributor to its standard of living, its growth of opportunity, and its reputation as a place where intellectual accomplishment is supported.

女性の指導者

皆さんは女子大学の学生さんなので、一つ付け加えるべきことがあります。それは、カナダは男女平等の政策でも高く評価されていることです。最近、世界経済フォーラム（WEF）が男女の格差を調査した報告書で、カナダは世界14位にランクされました。これはG7諸国の中で第3位です。G7のトップはドイツの5位で、次は英国の9位です。米国は22位、日本はG7の中で最も低い79位でした。

2004年に、日加両国は外交樹立75周年をお祝いしました。その記念行事の一環としてカナダ大使館は、従来あまり女性の活躍が見られなかった分野でのカナダ人女性の貢献を浮きぼりにするために、「科学技術とビジネスにおける女性（WST&T）コンファレンス」を開催しました。その大会は大成功を収め、その後日加両国は2005年1月に、「科学技術とビジネスにおける女性の学術交流（WISET）プログラム」という、今までにない二国間の国際的な科学技術イニシアティブを立ち上げました。このプログラムは、カナダ大使館が先頭に立ち、カナダ王立学会、文部科学省（MEXT）、日本学術会議の協力により進められています。科学技術分野で優れているとともに、講演者としても評判の高いカナダ人と日本人女性の国際交流プログラムです。現在のプログラムでは2008年までに、毎年4回の交流が行われることになっています。

結びの言葉

今日の競争の激しい世界では、若い人々にとってはワクワクするような機会もありますが、同時に、今までにはなかったむずかしい問題もあります。21世紀の世界で成功するには、学業だけでなく、グローバ

ルな物の見方、自分で考える力、知的好奇心が必要です。このような能力を身につけるのは容易なことではありません。その点で、国際教育は大きな価値を持っています。

特に日本の学生の皆様にとって、カナダは理想的な留学先であると思います。安全な環境と多様な文化をもつ社会という特徴を持つカナダは、世界各国の人々を引きつけており、留学生にとって大変住みやすい所です。また、英語とフランス語の二つの公用語を持つカナダでは、留学生は一つの国にしながら、二つの言語を学習することができます。カナダの教育機関は、中学校から大学院までどこでも、質の高い教育を提供することで世界的に有名です。カナダの学校には、幅広いせんたくしのある教科課程と、気分転換のために楽しめる、さまざまな課外活動が用意されています。

将来、留学を計画されている方は、是非カナダを留学先として考えてみてください。また、友人の方々とも今日的话题を話し合い、ともにカナダを留学先として考えていただければさいわいです。

皆様のご健闘をお祈りいたします。

ご清聴、ありがとうございました。